

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。
http://www.pref.tochigi.lg.jp/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html

毎月第3日曜日は「家庭の日」

「那須地区ふれあい学習ネットワーク」特集

2月5日（日）に那須塩原市三島ホールで「那須地区ふれあい学習ネットワーク」を開催しました。当日は、那須地区各小中学校のPTA役員を中心に、195名余りの方々に御参加いただきました。今回は「地域のつながりって何？～絆（きずな）づくりの第一歩～」をテーマに寸劇・分科会・シンポジウムの3部構成で行いました。



第1部では、「那須野家からの質問」と題して、ふれあい学習推進委員による寸劇が行われました。内容は、小5の息子が、最初は嫌々ながら参加した育成会の廃品回収であったが、何軒か回っているうちに、地域の大人から褒められ生き生きと活動するよう変容していく。その息子の変容していく姿を目の当たりにした母親は、地域のつながりの大切さに気づき、もっと地域の人と子どもたちが一緒にできることはないか考え始めます。しかし、家族と話し合っても答えが出ず、「地域で何かやろうと思ったとき、第一歩として何をすべきか？」会場に質問を投げかけます。

第2部では、那須野家からの質問を受け、小グループに分かれての分科会で「今、地域のつながりは」をテーマに、およそ40分間意見交換を行いました。参加者からは「異世代・異職業間での交流、話し合ったのでとてもためになった。」「地区によってだいぶ差があることが分かった。第一歩のヒントも見つかった。」などの感想がありました。



第3部では、「鈴野大畑灯籠祭」を立ち上げた菊地昭一氏（大畑自治公民館長）、ご当地ヒーロー「なしおレンジャー」の代表である三本木強氏をパネリストに迎え、国際医療福祉大学の小林雅彦教授のコーディネートのもとシンポジウムが行われました。パネリストからは、活動を立ち上げるまでの経緯や活動内容について説明がありました。アプローチの方法、プロセスには違いがあるお二人でしたが、人とのつながり、地域の活性化に熱意をもっていることが強く感じられました。最後に、小林教授からの「一生懸命やっている人がいるとそのことで心動かされる人がいる。」という言葉も深く心に響きました。

今回の参加者が、このネットワークで得たものを、それぞれの立場で実践していただければ幸いです。

